

臨床歯科学入門

責任者・コーディネーター	主) 口腔医学講座(予防歯科学分野) 岸 光男 教授 副) 解剖学講座(機能形態学分野) 藤原 尚樹 教授				
担当講座(分野)	解剖学講座(機能形態学分野)、解剖学講座(発生生物・再生医学分野)、生理学講座(病態生理学分野)、生化学講座(細胞情報科学分野)、病理学講座(病態解析学分野)、微生物学講座(分子微生物学分野)、薬理学講座(病態制御学分野)、医療工学講座、歯科保存学講座(う蝕治療学分野)、歯科保存学講座(歯周療法学分野)、補綴・インプラント学講座(補綴・インプラント学分野)、補綴・インプラント学講座(摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野)、口腔顎顔面再建学講座(口腔外科学分野)、口腔顎顔面再建学講座(歯科麻酔学分野)、口腔顎顔面再建学講座(歯科放射線学分野)、口腔保健育成学講座(歯科矯正学分野)、口腔保健育成学講座(小児歯科学・障害者歯科学分野)、口腔医学講座(関連医学分野)、口腔医学講座(予防歯科学分野)				
対象学年	1	区分・時間数	講義/演習	実習	
期間	通期		前期 後期	18.0時間 15.0時間	00.0時間 00.0時間

学修方針（講義概要等）

岩手医科大学歯学部は歯科医師になるための高度に専門的な学修の場であり、学生も歯科医師資格の取得を目的に入学する者がほとんどである。しかし、歯科医師としての専門性は高い倫理観や歯科医学的知識に偏らない広い教養などを基盤としたプロフェッショナリズムの上に確立される。そのため、第1学年では教養教育センターの科目を中心として普遍性の高い学修科目が多く組み込まれている。一方で、歯学部では入学時に持っていた専門性へのモチベーションの維持・向上も重要である。そのため、入学時に学生諸君が想定している歯科医師の役割を超えていると思われる先進的歯科治療を、それらの基盤となる基礎歯科医学と共に紹介し、概説する。そのため本科目は、臨床教員と基礎医学系教員がチームを組んで講義・演習を行う。

教育成果（アウトカム）

歯科医学では歯科特有の疾患の予防と治療を扱う臨床歯学を最終目標として学ぶが、その予防法や治療法はすべて体の構造・機能や病因・病態ならびに治癒機構を扱う生命科学に立脚していなければならない。すなわち、歯科臨床は基礎歯学の知識の上に成り立っている。本講義では歯科臨床で高頻度に経験する症例、治療等を提起し、その理解のためには基礎歯学の知識と思考法を身につけることが必須であることを理解することを目的としている。それにより、基礎歯科医学を学ぶうえで、モチベーションが向上し、歯科医師になることを意識した学習態度を身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：3、4、8、9）

事前事後学修の具体的内容及び時間

本科目は教科書を指定しない。講義前に、各ユニットの到達目標に記されている「事前学習課題」について各自学習してくる。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は本科目の全授業（ユニット）に対して該当する。

（事前学修：最低30分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	6/14 (水)	3 4	川井忠講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野) 藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形 態学分野)	口腔外科の手術と智歯抜 去術 口腔外科で行っている手 術の概要と智歯抜去の難 しさを理解する。	1. 智歯抜去の理由を列挙できる。 2. 智歯抜去の方法を概説できる。 3. 口腔外科疾患と手術の種類を概 説できる。 4. 診断・手術に必要な頭頸部の構 造について概説できる。 [E-1-4)-①②、E-2-1)-①②③、E- 2-4)-(1)-③] 事前学習：智歯抜去の理由・方法を 参考書などで予習すること。 評価方法：レポート
講義	6/21 (水)	3 4	佐々木大輔准教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野) 石川太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	歯周病の原因 口腔内二大疾患の一つで ある歯周病について、そ の原因から病状進行、症 状、治療法までを歯周病 原細菌の観点から学ぶこ とで、論理的な歯科臨床 を身につけることができ る。	1. 歯周病と歯周病原細菌の関係を 説明できる。 2. 歯周病の病状進行を説明でき る。 3. 歯周病の症状を説明できる。 4. 歯周病の検査方法を列挙でき る。 5. 歯周病の治療法を概説できる。 6. ペリオドンタルメディシンを概 説できる。 [E-3-1)-⑥、E-3-2)-③④、E-3-3- (3)-①②] 事前学習：到達目標の1、2、3につ いて調べ、まとめてくる。学習成果 について講義中随時発表機会を設 け、フィードバックする。 評価方法：講義後に筆記試験を行 う。
講義	6/28 (水)	3 4	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野) 藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形 態学分野)	歯科のエックス線画像検 査 歯科臨床で行われるエッ クス線検査がなぜ必要と なるのか想起する。 そのエックス線検査画像 から診断を得るために解 剖学の知識習得が重要で あることを理解する。 (本ユニットでは抜去歯 を用意し、肉眼所見とデ ンタルエックス線写真、 CBCT写真との比較を体験 する。)	1. 実際の歯を事前学習で学んだ内 容を踏まえて肉眼で観察し、内部構 造を想像する。 2. エックス線画像を観察して、事 前学習で学んだ構造や自身が推測し た内部構造と一致しているか、答え 合わせをする。 3. みられた構造の名称、簡単な役 割を学ぶ。 4. 歯科におけるエックス線検査と 解剖学の知識について、解剖学の必 要性、デンタルエックス線写真、 CBCT写真と関連づけて説明できる。 [E-1-2)、E-2-1)-②⑥、E-2-4)- (6)-②③] 事前学習：歯の構造について復習し ておくこと。 評価方法：レポート (課題：歯科に おけるエックス線検査の必要性につ いて)

講義	7/5 (水)	3 4	<p>田邊憲昌准教授 (補綴・インプラント学講座 補綴・インプラント学分野)</p> <p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)</p>	<p>過重咬合の弊害</p> <p>歯科診療において様々なトラブルを引き起こす過重咬合の弊害を学習することの重要性を理解し、今後の基礎的・臨床的歯科医学を能動的に学ぶことができるようになる。 (本ユニットでは主として講義による受動的な学習と実習形式の筋電図計測学習やディスカッションによる能動的学習を行う。)</p>	<p>1. 過重咬合圧による疾患を列挙できる。</p> <p>2. 歯の咬合圧負担のメカニズムを概説できる。</p> <p>3. 歯周組織や歯の構造の概略について概説できる。</p> <p>4. 咀嚼筋筋電図から咀嚼筋の働きと咬合の関係を概説できる。 [E-2-4)-(11)-①]</p> <p>事前学習：キーワード(歯、歯周組織、咀嚼筋、筋電図、顎関節、咬合力、ブラキシズム)について教科書、書籍、インターネット等の媒体を利用して可能な範囲で調べておくこと。 評価方法：レポート</p>
講義	7/12 (水)	3 4	<p>浅野明子講師 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)</p> <p>衣斐美歩講師 (病理学講座 病態解析学分野)</p>	<p>頭頸部癌患者の周術期管理 ～チーム医療・多職種連携を考える～</p> <p>癌の発生機序と頭頸部癌患者の審美・機能回復と社会復帰について考える。</p>	<p>1. 頭頸部癌の分類・原因について説明できる。</p> <p>2. 頭頸部癌の診断法について説明できる。</p> <p>3. 頭頸部癌の治療法と合併症について説明できる。</p> <p>4. 頭頸部癌術後の口腔ケア、審美・機能回復方法について説明できる。 [C-5-4、C-5-5、C-5-6]</p> <p>事前学習：頭頸部の癌について、成書等を使って調べておくこと。 評価方法：レポート</p>
講義	7/26 (水)	3 4	<p>岸光男教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)</p> <p>石崎明教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)</p>	<p>ライフステージによる齲蝕のちがい</p> <p>専門的学習を行うためには課題発見能力と批判的態度を身につける必要があることを学び、能動的学習ができるようになる。 (本ユニットでは主としてグループ討議、プレゼンテーションを用いた能動的学修を行う。)</p>	<p>1. 齲蝕についての平易な解説から自分が理解していないキーファクトを抽出する。</p> <p>2. キーファクトの科学的理解に必要なキーワードを抽出する。</p> <p>3. 上記プロセスを批判的に考察する。</p> <p>4. グループ討議に参加する。</p> <p>5. 臨床歯科医学と基礎歯科医学の関連を説明できる。 [A-2-1)-①～④、A-2-2)-①②、A-8-1)-②]</p> <p>事前学習：PBLの方法を確認しておくこと。 評価方法：レポート</p>

講義	10/31 (火)	3 4	<p>今一裕准教授 (補綴・インプラント学講座 補綴・インプラント学分野)</p> <p>武本真治教授 (医療工学講座)</p> <p>石崎明教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)</p>	<p>インプラント治療</p> <p>歯を失った時の治療方法としてのインプラント治療について、その方法的、材料学的あるいは生体学的側面よりアプローチすることにより、最先端歯科医療について理解する。 (本ユニットでは、各専門分野の講師からの講義を聴き、インプラント治療を総合的に理解する。)</p>	<p>1. 歯の補綴方法を列挙できる。 2. 生体材料について概説できる。 3. 骨代謝について概説できる。 [C-2-4)-(2)-②、C-3、4)-(2)-④、C-3、4)-(2)-⑤、D-2-⑤、D-2-⑧、E-3、4)-(1)-①、E-3、4)-(2)-②、E-3、4)-(3)-①、E-3、4)-(3)-②]</p> <p>事前学習：歯科補綴とは何かについてまとめておく。 評価方法：レポート</p>
講義	11/7 (火)	3 4	<p>小林琢也教授 (補綴・インプラント学講座 摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野)</p> <p>千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連医学分野)</p> <p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p>高齢者に対するアプローチ—嚥下機能も含めて—</p> <p>高齢者の全身状態、口腔内および嚥下機能の変化とその対応について解剖学からの観点も含め理解する。 最後まで楽しく健康な人生を送るためには、何が必要とされ、歯科医療は何かができるのかを考える。</p>	<p>1. 高齢者の全身状態の特徴を説明できる。 2. 高齢者の口腔内および嚥下機能の変化と対応について説明できる。 3. 高齢者の摂食嚥下機能に関わる人体解剖について説明できる。 [A-3-1-1, 2], [A-3-1-5-4], [D-5-7]</p> <p>事前学習：Web Classに事前にアップされた資料の内容を確認しておくこと。今後どのような社会になり、必要とされる歯科医療がなにかを考え、500字程度でまとめてくること。事前学習成果について講義中にディスカッション方式でフィードバックを行う。 評価方法：レポート。</p>
講義	11/21 (火)	3 4	<p>森川和政教授 (口腔保健育成学講座 小児歯科学分野)</p> <p>石河太知講師 (微生物学講座 分子微生物学分野)</p> <p>入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)</p>	<p>齶蝕の進行過程を追う</p> <p>齶蝕の進行を齶蝕原性細菌の感染と齶蝕病変の歯と歯周組織への波及という観点から理解できるようになる。 講義・ディスカッション (本ユニットでは講義の中で、教員とのディスカッションの機会を設ける。)</p>	<p>1. 齶蝕病変進行の病理を概説できる。 2. 口腔フローラと齶蝕病原性細菌について説明できる。 3. 齶蝕原性細菌の伝播を概説できる。 [E-3-2)-①②④]</p> <p>事前学習課題：齶蝕、齶蝕の進行について関連する教科書を読んでまとめておく。 評価方法：レポート</p>
講義	12/5 (火)	3 4	<p>佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野)</p> <p>田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)</p> <p>黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)</p>	<p>歯科治療における全身管理</p> <p>全身管理法の概要とその理解に必要な生理学、薬理学の学習内容を理解する。 (各自事前に作成したレポートを発表する能動的学習を行う。)</p>	<p>1. 精神鎮静法の概念、目的、適応、禁忌、種類、実施法を概略できる。 2. 精神鎮静法に使用する薬剤の種類と特徴、作用機序を概略できる。 [E-1-3)-③、E-1-4)-(1)-①②⑥、E-1-4)-(2)-①②③④]</p> <p>事前学習課題：『歯科治療時の不安や体験談』について、講義までに発表するレポートを各自作成する。 評価方法：レポート</p>

講義	12/12 (火)	3 4	<p>間山寿代准教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)</p> <p>大津圭史准教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)</p>	<p>歯数の異常と歯の発生のメカニズム</p> <p>歯数の異常に関する臨床症状と、歯の発生学、再生医療との連携を学ぶことで、歯科医療に寄与する基礎研究の魅力が理解できるようになる。 (講義後、グループ討議、プレゼンテーションを用いた能動的学修を行う。)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯数の異常について概説できる。 2. 歯数の異常が及ぼす影響を列挙できる。 3. 歯の発生のメカニズムを概説できる。 4. 歯の再生研究の意義を理解できる。 5. 講義の中から関心のある研究テーマを抽出し、グループ討議を通じてプレゼンテーションができる。 <p>[E-3-1)-①③]</p> <p>事前学習課題：組織学・発生学・口腔組織学テキストの「歯の発生」項目を読みまとめておく。</p> <p>評価方法：レポート</p>
----	--------------	--------	---	--	--

教科書・参考書・推薦図書 … 予め指定する図書はありません。

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義（ユニット）毎にレポートまたは講義後に行う筆記試験により評価する。レポート、筆記試験ともに得点化し、ユニット毎の評価点の平均点 60点以上を合格とする。レポート、筆記試験とも、採点後にコメントを付して返却する。

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

レポート提出は原則的にWebClassを使用するので使用法を確認しておくこと。
それ以外の場合は各ユニット責任者の指示に従うこと。
事前学習結果の確認のため講義・演習中に適宜口頭で質問するので回答の準備をしておくこと。得られた回答に関しては教員がその場でコメントしてフィードバックする。

授業に使用する機械・器具と使用目的 … 特記すべき器械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的